

かさおかわんかんたくち
笠岡湾干拓地

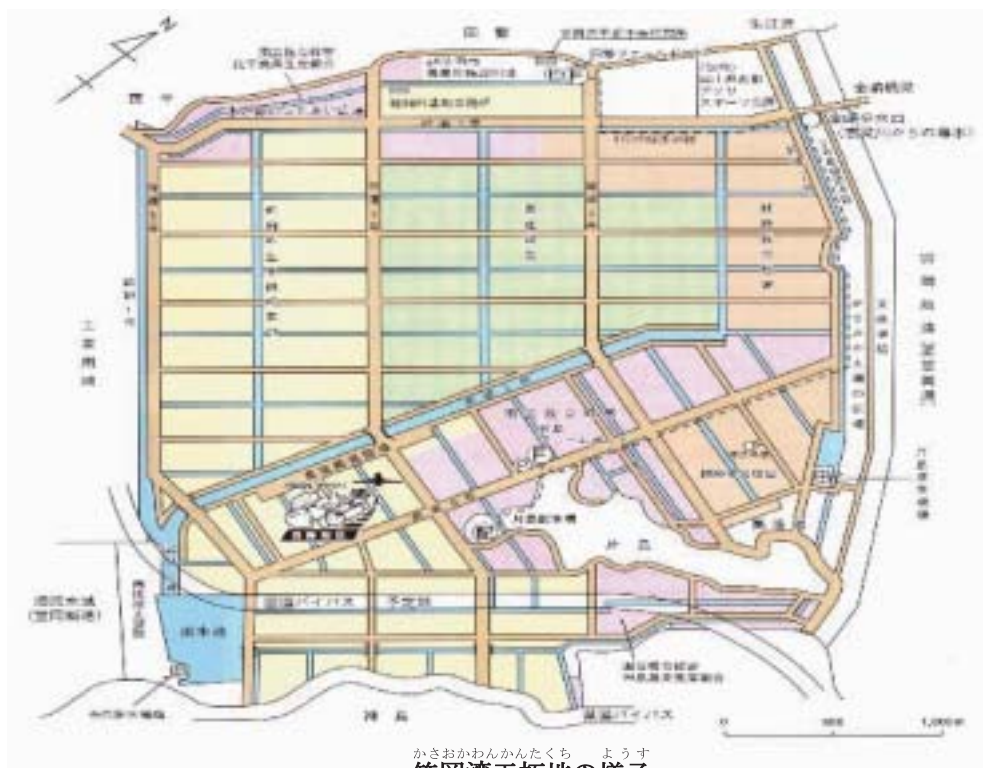
かさおかわんかんたくち おかやまけんせいぶ かさおかし
笠岡湾干拓地は岡山県西部の笠岡市にあり、
海の底から造られた畑です。



かさおかわんかんたく けんせつ あす ひら だいち みず 笠岡湾干拓地の建設(明日を拓く大地と水)

かさおかし たい えどじだい はじ
笠岡市には、もともと平らな土地が少なく、江戸時代の始めころから、少しずつ干拓により土地が造られてきました。

しょうわ じだい とみおかわんかんたく
昭和の時代になると、富岡湾干拓（105ha）ができあがり、また、昭和41年からは、今までのなかで一番大きな笠岡湾干拓が始まりました。へいせい やく
平成元年には、約1200ha（東京ドームおよそ250個分）の土地ができあがりました。その中には、大きな機械を使って野菜や花や飼料などを作っている畑、牛を飼っているところ、かんたく しごと ひとたち す
干拓地の中で仕事をしている人達が住んでいるところがあります。



かさおかわんかんたくち ようす
笠岡湾干拓地の様子

かんたく しょうわ
また、干拓地の中には、空港もあります。この空港は昭和63年から平成3年にかけて造られたもので、農道空港と呼ばれ、野菜や花を運んでいます。また、ラジコン大会や遊覧飛行の場としても親しまれています。



トピックス

かんたく

干拓地までの水の流れ(共用導水路)

昔から、笠岡市をはじめ周りの寄島町や里庄町、鴨方町では大きな川が無く、水が少なくて困って^{こま}いました。そこで、笠岡湾に新しく造った干拓地^{かんたく}の畑で使う水は、高梁川^{たかはしがわ}の上流にある新成羽川ダムにためた水を使うことにしました。

その水は高梁川を流れて、浅口郡船穂町にある取入口から取り入れられて、工場などで使う水や人が飲む水といっしょに約24kmの水路(共用導水路^{かんたく}と言います)を^{たかはしがわ}通って干拓地^{かんたく}までやってきています。



川から取った水をパイプを使って色々な場所に送っています。



トピックス

かんたく

干拓地ができるまで(干拓工事)



ポンプ船を使い海砂を海底に盛りました

笠岡湾干拓地では、東側の堤防3816mと、西側の堤防5928mを造るために、海底を砂で置き換えて、その上に「捨石」と呼ばれる石材を置いていきながら、堤防を造りました。



海の上にレールを敷き、捨石を行いました



倒れながら捨石を行う転倒船も使用しました

堤防が完成したら、海水を外に出して陸地にします。

しかし、そのままでは、今まで海だった場所なので、土の中に塩があり、農作物が出来ません。

そこで、土の上から水をかけて流して土の塩を抜いていきました。

そのような努力を行うことによって、今の畑が出来たのです。



堤防の工事中は、海の干満によって捨石の間から海水が流れ込むこともありました